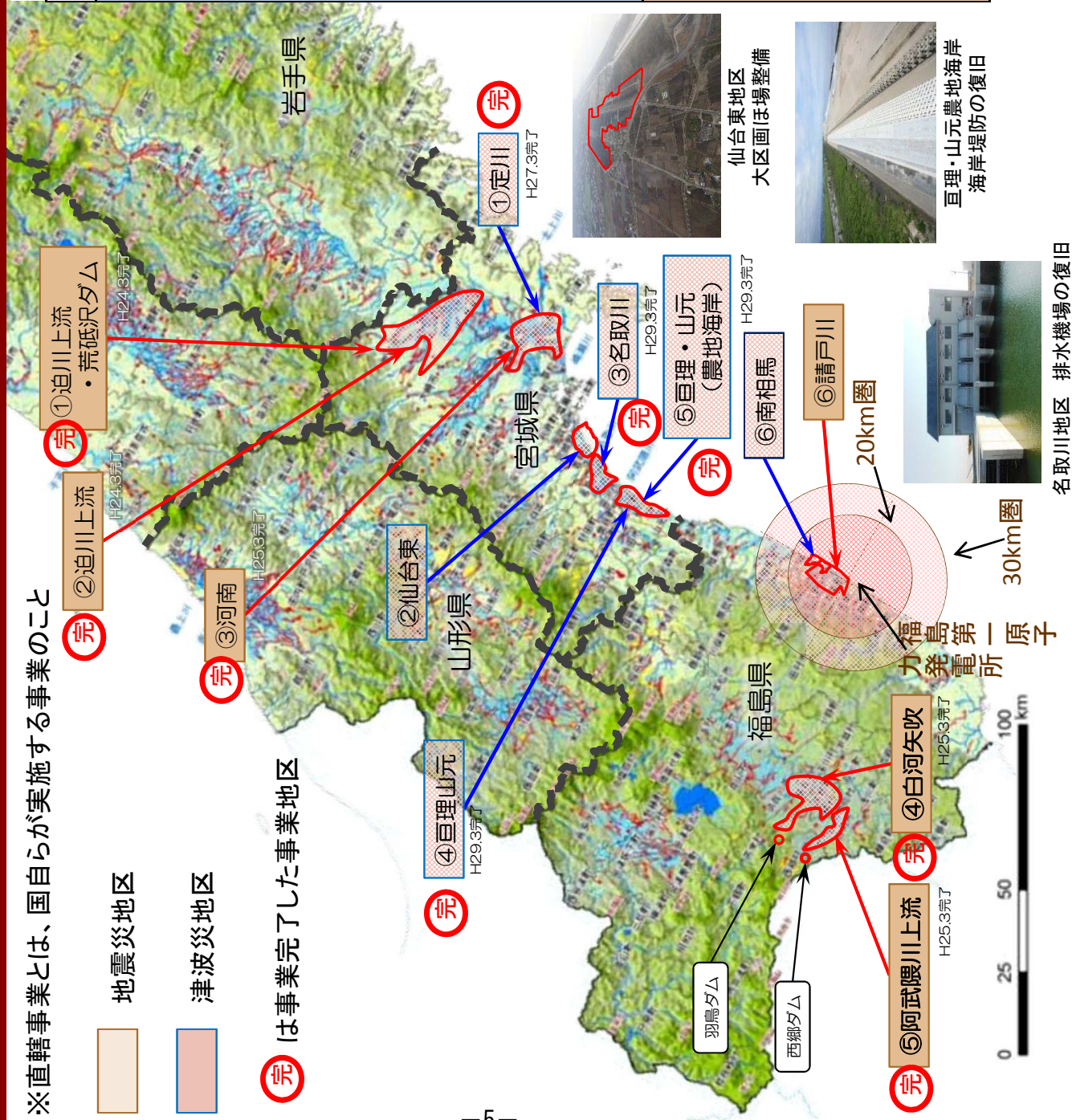


第2 直轄災害復旧事業の実施状況

1. 直轄災害復旧事業の位置図

※直轄事業とは、国自らが実施する事業のこと



区分	番号	地区名	県名	災害内容	事業費 (億円)
津波被災地区	①	定川	宮城県	排水機場 排水路等	28
	②	仙台東 (施設復旧)	宮城県	排水機場 排水路等	321
		仙台東 (農用地復旧)	宮城県	農地復旧	173
		仙台東 (除塩)	宮城県	除塩	75
		仙台東 (区画整理)	宮城県	区画整理	316
		計			884
	③	名取川	宮城県	排水機場 排水路等	155
	④	亘理山元	宮城県	排水機場 排水路等	123
地震被災地区	⑤	亘理・山元 (農地海岸)	宮城県	堤防工 防潮水門等	163
	⑥	南相馬	福島県	排水機場 排水路	173
		計			1,525
	①	迫川上流・荒砥沢ダム (再度災害復旧)	宮城県	流入工 排泥工	1
	②	迫川上流	宮城県	揚水機場 幹線水路	2
	③	河南	宮城県	排水機場 用水路	5
地震被災地区	④	白河矢吹	福島県	羽鳥ダム(堤体) 付帯施設	33
	⑤	阿武隈川上流	福島県	西郷ダム(堤体) 付帯施設	6
	⑥	請戸川	福島県	大柿ダム(堤体) 幹・支線用水路	76
		計			124

注：事業費は四捨五入によっているので、端数においては合計と一致しないものがある。

2. 仙台東地区の実施状況

農業用施設の被災状況

- 地区内の農地の約8割（1,800ha）が浸水し、排水機場等が壊滅的な被害を受けるとともに、地盤沈下により施設の機能が低下した。



<概要>

○総事業費：884億円

○主要工事計画

※H28まで復旧数量は、平成29年3月末時点

区 分		数 量	H28まで 復旧数量	施設名・復旧工法
施設復旧	基幹排水機場	4箇所	4箇所	高砂南部、大堀、二郷堀、藤塚
	揚排水機場	37箇所	36箇所	赤沼、大沼 他
	幹支線用水路	6.4km	3.1km	屋倉堀、蒲沼堀、渋川堀、角串堀、八丁堀、仙台堀、井土 他
	幹支線排水路	38.2km	33.4km	鍛冶谷地堀、桶筒堀、落堀、堤灯堀、大堀、北長沼堀、二郷堀、大学堀、長屋敷西、富岡堀、三本塚西、山王、館越、日辺、大口、中野西、中野東、藤塚 他
	ゲート、樋門	26箇所	20箇所	高砂南部排水機場樋門、二郷堀排水機場樋門 他
農用地復旧		1,810ha	1,810ha	雑物除去工、堆積土砂撤去工、客土工、均平工、ほ場洗掘部盛土等
除塩		1,393ha	1,393ha	雑物除去工、堆積土砂撤去工、湛水除塩工、畦畔復旧工（整地）
区画整理		1,978ha	970ha	

本格復旧

- 農地の復旧で1,800haで営農再開が可能となった。
- 施設の復旧は、復旧対象4排水機場がH27年度迄に完了し引渡し済。
- 現在は、農地の大区画化（1,980ha）を主体に実施中。



高砂南部排水機場（新設）



大堀排水機場



二郷堀排水機場（新設）



藤塚排水機場

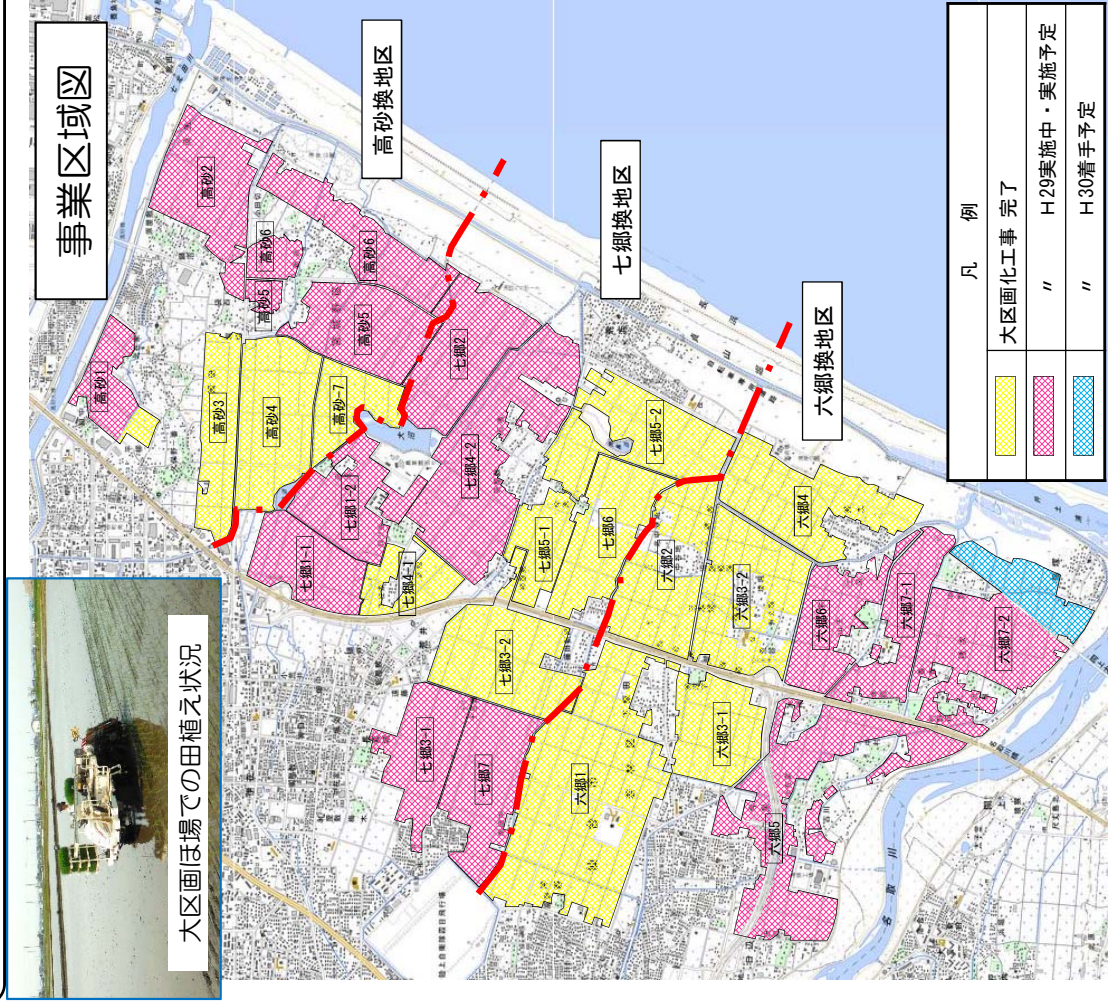


機場名	排水量 (震災前) (m ³ /s)	排水量 (震災後) (m ³ /s)	増加量 (m ³ /s)
高砂南部	5.15	10.70	5.55
大堀	2.60	4.20	1.60
二郷堀	10.00	20.20	10.20
藤塚	1.30	1.55	0.25
全体	19.05	36.65	17.60

「仙台東地区」ほ場整備事業概要と農地整備状況

平成29年3月末時点

- 地区内を27の用水ブロックに区切り、工事計画案及び換地計画原案を確定したうえで、順次、工事を実施
- 平成28年度までに大区画化工事が完了した約940haで効率的な営農が展開
- 平成29年度は、約930haで工事を実施し、大区画化工事は平成30年度に完了予定



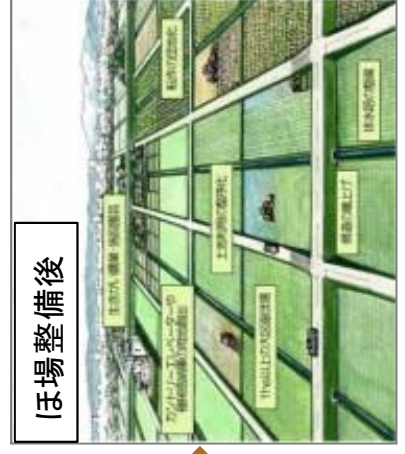
○事業概要

地区面積 : 2,244ha (農地・道路・水路含む)
 主要工事 区画整理 : 1,978ha
 工期(予定) : 平成23年度～平成32年度

・換地区毎に、次のような整備を行う。

換地区別	〈現況の整備状況〉	〈計画(整備方針)〉
高砂換地区	30a区画、パイプライン	→ 90a区画化
七郷換地区	30a区画、開水路	→ 90a区画化、パイプライン化
六郷換地区	10a区画、土水路	→ 1ha区画化、パイプライン化

・六郷換地区の整備イメージ図



○ 仙台東地区では1,800haで営農再開が可能となり、被災した経営体が復興したほか、新たな経営体が誕生しています。



(農) 仙台イーストカントリ-



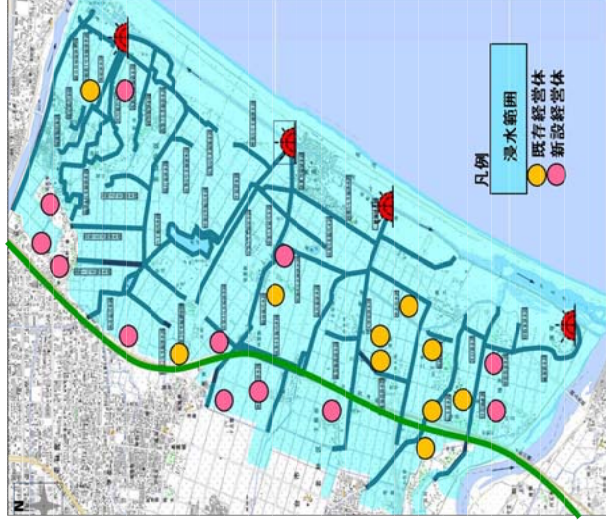
(農) 井土生産組合



(株) みちさき



新たな経営体が誕生



(株) サンフレッシュ小泉農園 (宮城県気仙沼市)

— 津波被災農地での大規模養液栽培の開始 —
サンフレッシュ小泉農園は、平成26年10月に設立。気仙沼市小泉地区内の津波被災農地に、オランダ型の大規模養液栽培施設(2ha)を整備し、平成27年10月からトマトの生産出荷を開始した。平成28年4月には、地元森林組合から寄贈された直売所をオープンし、地域の活性化に貢献。生産したトマトは「とまたん」の名称で出荷。



有限会社川俣シャモファーム (福島県川俣町)

— 町内全飼育農家に川俣シャモの雛を供給 —
有限会社川俣シャモファームは、川俣シャモの飼育農家や(株)川俣町農業振興公社との連携により、飼育から流通まで町内一貫体制で生産・加工・販売をおこなっている。交付金により育雛施設1棟を整備(平成27年3月に完成)。原子力災害により大きく減産しましたが、施設の拡充により27年から震災前の出荷羽数に回復させた。



広田半島営農組合 (岩手県陸前高田市)

— 地元産食材を使った手づくり工房再興 —
広田半島営農組合は、平成21年12月に設立。津波被災により継続が懸念されたが、復旧水田で営農を継続している。地元産食材を活用した6次化の取組も再開され、「手作り工房めぐ海」において「おやき」等の加工販売にも力を入れている。商品に使用していた根ショウガを地元産へ切り替えるため、ハウスでの栽培を開始した。



仙台イーストカントリー (宮城県仙台市)

— 25年に農家レストランをオープン —

仙台イーストカントリーは、平成20年1月に設立。津波により大きく被災したが、復旧農地で水稻を中心に作付再開。24年度には仙台市の「農と食のフロントティア推進特区」第1号に認定を受け、米を中心とした6次化に取り組んでいる。25年5月には農家レストランをオープン平成28年の経営面積は72ha 作業受託12ha。

